

# 学校保健委員会だより～子どもに寄り添う支援～

令和6年2月 新座市立東野小学校

## 校長より

立春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動に、ご理解とご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

さて、今年も学校保健委員会を参集の形で開催しました。今回の内容を、未来の宝の子供たちが、健やかに育ち、健康で豊かで安心した生活を送れるための有効な手立てとしてご参考にいただければ幸いです。

## 子どもに寄り添う支援

1月12日（金）に令和5年度学校保健委員会を行いました。今回は講師として十文字学園女子大学教授の加藤陽子先生をお招きし「子どもに寄り添う支援」と題し講演をしていただきました。保護者17名、教職員30名計46名が参加し、有意義な時間となりました。一部をご紹介します。



## 小学生の“心”

小学生には「児童期：赤ちゃんからの脱却」「思春期：大人になる準備の始まり」の2つの入口があります。児童期においては「自分」の作り方を学び始め、思春期ではこれからの自分へ移行する作業をしています。変化の中にいる小学生の“心”のバランスを保つために、<人のよさ>体験、心のエネルギー、社会的能力による心の土台を築くことが大切です。

## 子どもの“心”に寄り添うヒント

行動（Doing）より存在（Being）を意識しよう。家庭においては Doing より Being が大切です。豊かな Being によって包まれた子供は、他者への思いやりをもちます。「よく頑張ったね」「上手にできたね」と、Doing を褒めてしまいがちですが、「かわいいね」「すてきだね」などの Being を認めることを意識してみませんか。



## 保護者・教職員の感想

- ・子供の心に丸をつける！！1日1個目指します！！
- ・どんなに弱くてもボロ負けしてもファンをやめない、その大阪人魂でわが子のサポートをやっていくといいと気づきました。この方法ならできそうです。12歳17歳の姉妹育児に活用します。
- ・保護者に寄り添いながら中立的な立場で、保護者と職員との立場の違いを明らかにしながら、心理学にもとづいて話をしてくださったため、とても受容しやすく、貴重なお話を伺えたと思いました。

## 保護者の方からの質問 (Q)・加藤陽子先生からの回答 (A)

Q:子どものやる気の出し方について

A:やる気には、自分から出すやる気と人に言われて出すやる気があります。自発的なやる気の場合、やる気を出した結果そこには楽しさや喜びがあるとご本人が感じていなければなりません。人は嫌なことは我慢できなかつたり、気持ちが向かなかつたりするものです。ぜひ、やる気を出した「その先」について親子で共有してみてください。

Q:反抗期を迎えている子どもに対し、対応や言葉かけ、子どもに寄り添い続けられるような親の心の安定方法などを教えてもらえたらと思います。

A:この時期、親御さんには子どもの「自分で」を大切にさせていただきたいです。反抗期は、子どもが「自分」というものを持つための試行錯誤の結果です。言動も一貫しないでしょう。ですが、その時々言葉や態度に振り回されず、まずは理解して対等に向き合ってみるといった対応をできるといいなと思います。思春期の子供を「わからない」と突き放す態度は、かえってその子の模索している“らしさ”の否定につながります。どうぞ拒絶せず、「わかりたい」という気持ちでお子さんに向き合うことから始めてみてください。

Q:知人に学校に行けないお子さんがいます。お母様もどうしたらいいのかわからないと話されていました。私たち親子にできることはありますか？また、今後どのように関わっていったらよいでしょうか。

A:サポートにはたくさん方法があります。お話を聞くことや思いを寄せることは情緒的サポートといえます。ほかの子が登校している中、なかなか自分の子供の登校状況を話せる保護者の方は少ないと思います。どうぞお話を聞いて差し上げてください。また、情報の提供というサポートもあります。ぜひ、市内の教育相談や親の会等のサポートがあることをお伝えいただければと思います。

Q:子どものケアの方法

A:心をいたわるにはたくさん方法があります。どの答えが正解かはわからないのですが、よろしければこちらの本などをお読みください。『子どものこころを育てる「ひとこと」探し』菅野純（本の森出版）

Q:お姉ちゃんがタブレットで勉強していると下の子と一緒にやりたがります。下の子は幼児でタブレット等も見せないようにしているので、やりたがってしまうときはこまります。

A:きつとお姉ちゃんのお勉強が楽しそうに見えるんですね。お二人ともお利巧ですね。1歳代なのでしたら、自分の働きかけに反応が返ってくることが楽しい時期です。タブレットでなくても、そのようなおもちゃを与えると夢中になるのではないかと思います。どうしてもお困りということであれば、家庭内で穏やかなルールを決めましょう。お勉強は兄弟がいない場所です。他の大人に手伝ってもらって下の子はその時間だけ外に連れ出すなどです。子どもにかかわる大人がみな同じ認識を持つことが大事です。協力を仰いでみてください。

Q:スマホ等の制限で、子どもが親と友達の間で気持ちが揺れているのがわかる時、親の私も揺らぎます。何が正解かわからない。

A:ご家庭ごとに事情は異なりますから、正解は一つではなく、ルールは違って当然だと思います。ただ、どうしても揺らいでしまうようでしたら、都度、話し合いをもたれるのはどうでしょうか。ルールはお子さんの状況に合わせて変更可能だと思います。「一度決めたルールは遵守するが、ルール変更は可能。ただし、変更の際は、その都度親子で話し合う機会を設けること。一方的な意見の押し付けではなく、ある程度お互いに納得できるまで話し合うこと。」これらが重要だと思います。